

2019年市議会9月通常会議 請願

請願第 5 号 公民館のコミュニティーセンター化については、拙速な条例化を行わず、丁寧な議論ととりくみを進め、市民への説明責任を求める請願

請願第 6 号 大津市立天神山保育園の存続を求める請願

公民館のコミュニティーセンター化については、拙速な条例化を行わず、丁寧な議論ととりくみを進め、市民への説明責任を求める請願

【紹介議員：共産党、協生、清正】

大津市では昭和49年3月策定の「大津市総合発展計画」に基づき、地域住民相互の対話・学習・交流の拠点として公民館を含む市民センターが各学区に設置されてきました。

公民館では地域住民による自主的な学習や文化交流が活発に取り組み、とりわけ『人権・生涯学習』の拠点として、教育委員会が生涯学習専門員を配置し、すべての大津市民の人権が尊重される地域社会の実現を目指して、市民と行政の協働により推進されてくるなど、現状の公民館は、すでにまちづくりや地域交流、生涯学習の拠点として地域の学びや交流を保障する大きな役割を果たしています。

しかしながら大津市では、「市民センター機能等の在り方実施案」において、公民館をコミュニティーセンター化し、将来的に生涯学習専門員の職を廃止、指定管理者制度によって地域に管理運営を委ねる方針を示されています。そしてその担い手として、まちづくり協議会の設立の取り組みも並行して行おうとするものですが、市民への周知が不足し、コミュニティーセンター化することのメリット・デメリットの共有もできておらず、先の8月22日に開催された大津市議会公共施設対策特別委員会での議論においても市民の認識との隔たりがあらためて浮き彫りになりました。

市が目指す住民自治の確立のために、さらに公民館活動を充実させて、地域の実情に応じたまちづくり協議会の設立に向けた丁寧な取り組みを優先させることと同時に、関係法令等を精査し市としての説明責任が果たせる制度構築を行うことが重要であると考えます。

そのためにもコミュニティーセンター化を急ぐより、市民の理解と合意形成を大切にした取り組みを進めて行くことを目指して、以下の項目を請願します。

請願項目

1. 公民館のコミュニティーセンター化について、9月議会で拙速な条例化を行わないこと。
2. 議会での丁寧な議論を通じて、市民の理解と合意形成を大切にし、市民に対する説明責任を果たすよう市に求めること。

請願者：支所・公民館を守る大津市民の会

大津市立天神山保育園の存続を求める請願

【紹介議員：新和】

請願項目

- ①現在大津市立天神山保育園に在園している子どもが少なくとも卒園するまでの間、市立保育園として存続させること
- ②また、民営化に向けた合意形成が不調の時は市立保育園として存続することを検討すること

請願趣旨

女性の社会進出が進み、また核家族化が増えていく中で、益々保育需要は高まっています。そうした社会情勢での待機児童解消のためには、民間事業者を増やすだけでなく、保育の質の指標とされている公立保育園が重要な役割を担っていることを再認識して頂き、その質と数を維持していくことが必要であると考えております。

しかし、大津市は財政難を理由に、市立保育園にかかる経費削減のため、近接した地域に、2つの公立保育園があるという理由で天神山保育園は民営化の対象となっておりますが、その周りの地域を見ますと、下阪本、坂本、雄琴、仰木、仰木の里に市立保育園はありません。そのことから、現在、天神山保育園の在園児の50%以上が下阪本、坂本、雄琴、仰木、仰木の里、仰木の里東学区在住であり、今日まで天神山保育園が唐崎保育園と堅田保育園の中間のエリアをカバーする役割を担ってきました。また、人口増加が見込まれる真野や真野北をも視野に入れるならば、市立天神山保育園の担うべき役割がさらに大きなものになると考えています。

天神山保育園は大津市の市立保育園で初めて開園された長い歴史のある保育園であり、長年地域の方との関わりを大切にされた保育をされ、地域からも親しまれております。また、大津市の他の市立保育園が保育士不足で定員割れをしている中、唯一定員以上の子どもを受け入れている市立保育園です。私たち保護者は、天神山保育園の保育観、そして先生方を信頼しており、子どもたちも安心して保育園生活を送っています。保育園は子どもにとって第二の家庭です。その家庭環境が激変することを、子どもや私たち保護者は望んでおりません。また、子育て支援事業などを通して入所希望される方も、公立の保育園への入園を希望されており不安を抱いておられます。どうか、市立天神山保育園がこの地域にとって必要な保育園であることへのご理解をお願いいたします。

平成30年度では、大津市の保育園における障がいのある子どもの受け入れ人数は、1園あたり市立保育園では重度の障がいのある子どもが4人に対し民間保育園では1.43人、中軽度が5.28人に対し2.58人と相当な差があり、市立保育園が支援を必要としている子どもたちや私たち保護者にとっては大変重要な役割を果たしております。天神山保育園でも多くの障がいのある子どもを受け入れております。現在、多くの民間保育園では重度の障がいのある子どもは、経験豊

富なベテランの保育士の雇用が難しく受け入れ態勢が整わないという理由で断っている現状があり、民営化することで支援を必要とする子どもたちの行き場が1つなくなると懸念しています。言うまでもなく、民間保育園への補助金を増額するなどして重度の障がいのある子の受け入れが可能な状況をつくっていくことが大切なことであると考えております。

私たち保護者は、この民営化計画の議論や説明が唐突であり、昨年入園した子どもたちの入園時には当然ながらその話は聞かされず、今年度の入園児の入所申し込み時にも説明はなく、12月に文書であっただけであり、その後も合意形成がなされないままに財政難を理由に進められることに大

きな不安とともに怒りを感じております。大津の子どもたちの健やかな成長を願ってやまない私たち保護者の思いを汲み取っていただき、市長の目指しておられる「子育てにやさしいまち大津」の実現のためにも、安心して子どもを育てることができるような環境を整えて下さることを切に願っております。

平成 31 年 2 月 15 日に請願を提出しましたが、残念ながら採択には至りませんでした。改めて今回、大津市立天神山保育園を在園児が少なくとも卒園するまでの間市立保育園として存続させるよう強く要望致しますとともに、民営化に向けた合意形成が不調の時は市立保育園として存続することを検討するよう要望します。

請願者：天神山保育園保護者会、天神山保育園の存続を願う会